

総合診療科

「夢」と「情熱」

これが総合診療のキーワードです。

当科には、(1) 総合診療専門研修プログラムと(2) 内科専門研修プログラム(総合内科コース)の2つがあります。いずれも目指す姿は、総合病院から地域の中小病院、そして診療所まで幅広い環境で、救急初療から内科急性期疾患全般、そして地域の診療所診療をカバーでき、臨床研究などの研究マインドとスキルをもった、世界標準の Academic Generalist です。

当プログラムは、研修指導実績の豊富な指導医陣による大学での手厚い指導、また市中病院・診療所での豊富な急性期・慢性期の common disease の経験など、大学病院と市中医療機関のコラボレーションによる互いの得意分野を生かした素晴らしい研修内容になっています。基幹病院の東京女子医科大学をはじめ、すべての研修施設は自由で開かれた雰囲気があります。カリキュラムは専攻医の皆様のニーズに合わせて修正してまいります。総合診療と内科のダブルボードプログラムも研修できます。また専門研修修了後には大学院や留学、各サブスペシャリティ・フェローシップコースなど多彩な選択肢が用意されており、専門研修から若手指導医として自立するまでを一つのパッケージとしたキャリアサポートが可能です。

主としてローテートする東京女子医大病院総合診療科では、総合診療科や救急外来からプライマリ・ケアの代表的な疾患を持つ患者を入院させて診療にあたります。また、総合診療科外来では新患患者を診察してもらいます。指導医からの的確な指導と充実した教育資源で、いかなるプライマリ・ケア疾患をも診療できる能力を具備できます。

詳細についてはぜひお気軽にお問い合わせ下さい。

【総合診療専門研修プログラム】

当科のテーマは‘大学、市中病院、そして診療所のコラボレーションによる多様な研修・教育・研究です。大学病院ならではの充実した教育環境、大学病院でありながら豊富なプライマリ・ケア患者、そして地域医療の実際を学ぶために市中病院や診療所での診療を組み合わせた、病院総合医を目指す方、家庭医を目指す方のいずれも満足していただけるフレキシビリティを持ったプログラムになっています。手厚い指導医、多くの教育資源があります。救急、小児科、ウイメンズヘルスなども十分に学べます。内科とのダブルボードプログラム、ベテラン医師の再教育研修、さらに大学院進学も対応できます。自由で開かれた東京女子医科大学の優れた教育・研修資源をふんだんに活用していただけます。

研修施設

1) 総合診療専門研修 I

- (a) 都市型研修施設：梶原診療所、多摩ファミリークリニック、武蔵野国分寺公園クリニックなど
- (b) 地方型研修施設：奥多摩病院（東京都）、志摩市民病院（三重県）、下田メディカルセンターなど

2) 総合診療専門研修Ⅱ

- (a) 都市型研修施設：東京女子医科大学総合診療科、東京女子医科大学東医療センター、区立台東病院、済生会川口総合病院、千葉大学医学部附属病院総合診療科など
- (b) 地方型研修施設：多摩北部医療センター（東京都）、東京女子医科大学八千代医療センター、常陸大宮済生会病院（茨城県）、市立伊勢総合病院（三重県）、邑智病院（島根県）など

3) 内科研修

- (a) 都市型研修施設：東京女子医科大学総合診療科、東京女子医科大学東医療センター、練馬光が丘病院、千葉大学医学部附属病院総合診療科など
- (b) 地方型研修施設：多摩北部医療センター（東京都）、常陸大宮済生会病院（茨城県）、市立伊勢総合病院（三重県）など

4) 小児科研修

練馬光が丘病院、東京女子医科大学附属八千代医療センター、多摩北部医療センター、常陸大宮済生会病院など

5) 救急科研修

東京女子医科大学病院救命救急センター・EMD（ウオークイン）、練馬光が丘病院など

6) ウイメンズヘルス研修

東京女子医科大学病院女性科、恵寿総合病院家庭医療科

研修プログラム

本研修 PG は基幹施設である東京女子医科大学病院総合診療科が研修全体をコーディネートする統括組織としての役割を担い、連携施設の施設群とで研修が行われます。大学病院での研修を比較的長くとることができます。

将来、総合診療医として活動する場に応じて、診療所に比べて主に病院での研修に重点を置く研修（病院重点）や病院に比べて主に診療所での研修に重点を置く研修（診療所重点）など、多様なローテーションを組み立てることができます。

将来、病院の総合診療医として活躍する場合のローテーション例としては、総合診療専門研修Ⅰ6か月、総合診療専門研修Ⅱ12か月、内科12か月、小児科3か月、救急3か月の必修を組合せたローテーションを行います。

将来、診療所の総合診療医として活躍する場合のローテーション例としては、総合診療専門研修Ⅰ12か月、総合診療専門研修Ⅱ6か月、内科12か月、小児科3か月、救急3か月の必修を組合せたローテーションを行います。

*内科とのダブルボードを希望する者はさらに1年間の内科研修を付加します。

*日本プライマリ・ケア連合学会認定の新・家庭医療専門医プログラムにも登録可能です。

総合診療専門研修プログラムについての問い合わせはこちら

東京女子医科大学総合診療科（秘書） 青沼 aonuma.yui@twmu.ac.jp

【内科専門研修プログラム（総合内科コース）】

当科は東京女子医科大学内科専門研修プログラムの一員として、総合内科コースを担当しています。特定の専門科研修に偏らない幅広く質の高い内科系研修を行い、内科医としての一生のベースとなる基礎体力を身に着けます。

また、総合診療と総合内科のプログラムをコンバインして、4年間の内科・総合診療のダブルボードコースにすることもできます。

内科専門医取得後は、高い臨床力に裏打ちされた教育者を目指すべく、総合内科フェロースhipや東京女子医科大学内のサブスペシャリティ研修等の進路もあります。また後期研修中から大学院への進学も可能です。

内科専門研修プログラム（総合内科コース）についての問い合わせはこちら

東京女子医科大学総合診療科（秘書） 青沼 aonuma.yui@twmu.ac.jp